サリチル酸絞剤膏
Salicylic Acid Adhesive Plaster

製法

<table>
<thead>
<tr>
<th>材料</th>
<th>用途</th>
<th>量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サリチル酸、細末</td>
<td>500 g</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>絞剤基剤</td>
<td>適量</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>全 量</td>
<td>1000 g</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

以上をとり、精選したゴム、樹脂類、酸化亜鉛及びその他の物質を練り合わせ、粘着性物質とし、布に均等に延べて製する。

性状 本品の膏面は類白色で、皮膚によく付着する。

貯法
保存条件 遮光して保存する。
容器 密閉容器。

複方サリチル酸メチル精
Compound Methyl Salicylate Spirit

製法

<table>
<thead>
<tr>
<th>材料</th>
<th>用途</th>
<th>量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サリチル酸メチル</td>
<td>40 mL</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>トウガランシチキ</td>
<td>100 mL</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>トルエン</td>
<td>d又はd-l-カンファル</td>
<td>50 g</td>
</tr>
<tr>
<td>エタノール</td>
<td>適量</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>全 量</td>
<td>1000 mL</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

以上をとり、酒精剤の薬法により製する。

性状 本品は淡赤黄色の液で、特異なにおいがあり、味はやくある。

確認試験

1. 本品1 mLに市販4 gを加えてよく振混ぜた後、塩化第二鉄（III）試液1滴を加えるとき、液は紫色を呈する（サリチル酸メチル）。

2. 本品1 mLにクロロホルム10 mLを加えてよく振混ぜ、試料液とする。別にサリチル酸メチル0.04 gをクロロホルム10 mLに溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液各5 gずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入）を用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン/クロロホルム溶媒（4:1）を展開浴として約10 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（波長254 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットのRf値は等しい。また、この薄層板に塩化第二鉄（III）試液を加えずに曝露すると、薄層板から得たスポット及びそれに対応する位置の試料溶液から得たスポットは、紫色を呈する。

貯法 容器 開密容器。

サリチル・ミオウバン散
Salicylated Alum Powder

本品は定量するとき、サリチル酸（C₈H₇O₄）2.7 ～3.3％を含む。

製法

<table>
<thead>
<tr>
<th>材料</th>
<th>用途</th>
<th>量</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>サリチル酸、細末</td>
<td>30 g</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>乾燥硫酸アルミニウムカリウム、微末</td>
<td>640 g</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>タルク、微末</td>
<td>適量</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>全 量</td>
<td>1000 g</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

以上をとり、分散剤の製法により製する。

性状 本品は白色の粉末である。

確認試験

（1）定量法で得た呈色液は赤紫色を呈する。また、この液につき、紫外可視吸光度測定法により吸収スペクトルを測定するとき、波長520 ～535 nmにおける吸光度の極大を示す（サリチル酸）。

（2）本品0.3 gにメタノール5 mLを加えてよく振混ぜた後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。別にサリチル酸0.01 gをメタノール5 mLに溶かし、標準溶液とする。これら第一液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液各5 gずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剂入）を用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロロホルム/アセトン/酢酸（100）混合液（45:5:1）を展開溶媒として約10 cm展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線（波長254 nm）を照射するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットのRf値は等しい。また、この薄層板に塩化第二鉄（III）試液を均等に塗布すると、標準溶液から得たスポット及びそれに対応する位置の試料溶液から得たスポットは、紫色を呈する。

定量法 本品約0.33 gを精密に量り、エタノール（95）80 mLを加えてよく振混ぜた後、更にエタノール（95）を加えて正確に100 mLとし、ふるい過ごし、初めのうの液10 mLを除き、次のろ液を試料溶液とする。別に定量用サリチル酸をデシケータ（シリカゲル）で3時間乾燥し、その頭0.1 gを精密に量り、エタノール（95）に溶かし、正確に100 mLとする。この液10 mLを正確に量り、エタノール（95）を加えて正確に100 mLとし、標準溶液とする。試料溶液及び標準溶液各10 mLずつを正確に量り、それぞれに硝酸鉄（III）九水和物溶液（1 → 200）5 mLを正確に加え、更にpH 2.0の塩酸・塩化カリウム緩衝液を加えて正確に25 mLとする。これらの液につき、エタノール（95）10 mLを用いて同様に操作して得た液を対照として、紫外可視吸光度測定法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液から得たそれぞれの液の波長630 nmにおける吸光度Aₚ及びAₜを測定する。

サリチル酸（C₈H₇O₄）の量（mg）

= 定量用サリチル酸の量（mg） × Aₚ / Aₜ × 1 / 10

貯法 容器 開密容器。

酸化カルシウム
Calcium Oxide
生石灰

CaO: 56.08

本品を強熱したり、破壊したり、酸化カルシウムを作成する。
酸化チタン

Titanium Oxide

$\text{TiO}_2: 79.87$

本品を乾燥したものは定量するとき、酸化チタン（$\text{TiO}_2$）98.5％以上を含む。

性状 本品は白色の粉末で、水を含む。においはなく、本品は熱湯に溶けにくく、エタノール（95）にほとんど溶けない。

本品1gは水2500mlにほとんど溶ける。

本品は空気中で徐々に湿気及び二酸化炭素を吸収する。

確認試験
（1）本品を水で混ぜると、発熱して白色の粉末となり、これを約5分間放置してから水道水に溶かす。

（2）本品1gに水20mlを混ぜ、酢酸（31）を加えて溶かした液は、カルシウム塩の着色性を呈する。

純度試験
（1）酸不溶物 本品5.0gに水を加えててを崩壊し、水100mlを加えてよく混ぜながら水道水に溶かす。

（2）炭酸塩 本品1.0gに水を加えててを崩壊し、水50mlをよく混ぜ、しばらく放置してより、上層の乳状の大部分を除去し、残留物に過剰の希塩酸を加える。

（3）マグネシウムおよびアルカリ金属 本品1.0gに水75mlを混ぜ、塩酸を加えて溶かす。

（4）ニッケルおよび鉛 本品5.0gに水を加えててを崩壊し、水100mlを加えてよく混ぜ、更に10分間煮沸し、水を加えててを崩壊し、水50mlを加えてよく混ぜる。}

強熱減量 10.0％以下（1g、900℃、恒量）。

定量化 本品を900℃で恒温になるまで強熱し、デシケーターで冷却する。その約0.7gを精密に量り、水50ml及び薄めた塩酸（1→3）8mlを加え、加熱して溶かす。冷後、水を加えて正確250mlとする。この液を正確に量り、水50ml及び8mol/L水酸化カリウム溶液20mlを加え、更に10%指示薬0.1gを加え、0.02mol/Lエチレンジアミン四酢酸二水素二水酸ニトリアニモニウムで滴定する。

0.02mol/Lエチレンジアミン四酢酸二水素ニトリアニモニウム 1ml
$=1.2125\, \text{mg CaO}$

酸化チタン

Titanium Oxide

$\text{TiO}_2: 79.87$

本品を乾燥したものは定量するとき、酸化チタン（$\text{TiO}_2$）98.5％以上を含む。

性状 本品は白色の粉末で、におい及び味はない。

本品は水、エタノール（95.6）又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品は酸としてアルカリ性を呈するが、塩酸、硝酸又は希硫酸に溶けない。

本品は硫酸水素カリウム、水酸化カリウム又は硫酸アソニウムを加えて、加熱して融解するとき、可溶性塩に変わる。

本品1gに水10mlを加え、振る混ぜた液は中性である。

確認試験 本品0.5gに硫酸5mlを加え、水を通じて溶かし、更に加熱し、冷後、水を加えて100mlとし、更に硫酸5mlを加え、水を通して溶かし、冷後、水を加えて100mlとし、試料原液とする。

試料原液25mlを分液漏斗に入れ、硫酸アンモニウム溶液（2→5）10ml及びチモールブルー試験5滴を加え、アンモニウム試薬で中和し、更にアンモニウム試薬2.5mlを加えた液、この液にジチゾンの酢酸n-プチル溶液（1→500）20mlを正確に加え、10分間煮沸と溶かした後、溶かしを試料原液とする。

使用方法：

可燃性ガス アセチレン又は水素
不燃性ガス 空気

波長：283.6nm

（2）非定量化の試験原液20mlを検液とし、装置Bを用いる方法により試験を行うとき、次の標準色と色を比色。

標準色：本品を用いないで同様に操作した時、この液20mlを発生器に入れ、比色標準液2.0mlを加え、以下検液と同様に操作する（10ppm以下）。

（3）水可溶物 本品4.0gに水50mlを加え、よく振れ洗い、一夜放置する。

（4）水可溶物 本品4.0gに50mlを加え、よく振れ洗い、一夜放置する。

乾燥減量 0.5％以下（1g、105℃、3時間）。

定量化 本品を乾燥し、その約0.2gを精密に量り、水に溶かし、更に硫酸水素カリウム3gを加え、水を加え、更に水を加えて200mlとする。この液を正確に量り、水を加えて200mlとする。

初めのろ過10mlを除き、更にろ過の液100mlとする。

更に水を加え、更に水を加えて200mlとする。

乾燥減量 0.5％以下（1g、105℃、3時間）。